

北九州における情報通信革新技術の活用に関する調査研究

Survey on Advanced IT R&D and Application in Kitakyusyu

キーワード 地域情報化、ポータルサイト、eラーニング、

1. 調査の目的

北九州市における情報インフラは、ネットワーク系を中心に、全国でも有数の整備状況を誇っている。特に、ギガビット・ネットワーク関連施設や、T A Oの研究開発支援センター等の施設は全国的に注目を浴びている。

平成13年度は、北九州市の地域特性を考慮して具体的な研究開発領域及びテーマの絞り込みを行うとともに、地域での具体的展開方策について検討を行った。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査研究の構造

平成13年度は、以下の5つのワーキンググループを設置し、それぞれのワーキンググループにおいて、具体的研究開発課題の抽出、推進体制、スケジュールなどを検討した。

ライフポータルツールグループ

医療福祉ワーキンググループ

eラーニンググループ

ワークインテンショングループ

地域情報インフラグループ

なお、これらの5つのワーキンググループの関係は、次ページの図1のようになる。

(2) 検討結果

各ワーキンググループの検討結果は、以下のとおりである。

ライフポータルツールグループ

民間のサービスはもとより、行政サービス（電子自治体）を含め、様々な生活関連サービスがインターネットを介して生活の場に浸透してゆくネットワーク社会において、情報リテラシーの決して高くない市民が、日々の生活上のリテラシーのレベルで場王代無尽蔵な情報の中から、必要な情報だけを容易に取り出せるようなポータルツールを開発するとともに、高視聴率なネット上のマーケットを創造することで、地域企業の情報流通ビジネスへの参入も促進し、地域全体へネットワーク経済社会の効用を浸透させる

eラーニンググループ

北九州の地域特性を考慮した地域振興を展開するにあたって、優秀な人材育成は不可欠である。そのためには、ITとネットワークを活用したeラーニングの導入が最も効果的と思われる。

本ワーキンググループでは、北九州の地域特性を考慮して、「海外留学生・研修員支援ポータルサイト」構築を、当面の取り組みテーマとして選定した。

ワークインテンショングループ

情報通信技術を活用して北九州の産業振興を図るにあたり、企業のライフサイクル（起業期～成長期～成熟期～転換期～衰退期）という観点に着目して、具体的な研究開発課題を検討した。

今回は、「創業」ステージに焦点を絞り、北九州市内で創業・開業する人に対して、総合的に支援するポータルサイト「北九州創業塾」を構築するための方策を検討することとなった。「北九州創業塾」を構成する基本機能として、「創業・開業円滑化支援機能」、「北九州ビジネス情報提供機能」を検討した。

地域情報インフラグループ

北九州市において、行政・地域企業等のIT社会への変革の促進、ネットサービス・ネットビジネス系企業の育成・創出・誘致の推進のためにインターネットを快適に活用しうる情報通信環境の整備が必要で、この実現のためにIX（Internet eXchange）の展開方策を検討した。

(3) 今後の展望

前記の5つのワーキンググループにおいて、重点研究開発プロジェクトを検討した。その結果、次の5つのプロジェクトが重点検討候補として選ばれた。なお、このうち、およびについてはKTICメンバー以外の外部参加者を含む「ライフポータル研究会」、については「北九州ABX研究会」において継続的に検討されることになった。

3D生活空間型ポータルツール（ライフポータルグループ ライフポータル研究会）

暮らしのポータルツール（同上）

海外留学生・研究員支援ポータルサイト（eラーニンググループ）

北九州創業塾（ワークポータルグループ）

次世代情報通信基盤（情報通信インフラグループ ABX研究会）